【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成27年9月10日(2015.9.10)

【公開番号】特開2014-209304(P2014-209304A)
【公開日】平成26年11月6日(2014.11.6)
【年通号数】公開・登録公報2014-061
【出願番号】特願2013-169785(P2013-169785)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　1/16　(2006.01)
Ｇ０９Ｆ　9/00　(2006.01)
Ｈ０５Ｋ　9/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｚ
Ｇ０９Ｆ　9/00　３６２
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｌ
Ｈ０５Ｋ　9/00　Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成27年7月23日(2015.7.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
また、信号処理部６ｂを、デジタイザフィルム７ａとシールド板７ｂとの間に介在させると、信号処理部６ｂの符号化や複合化で発生する電気信号の漏れ等がデジタイザ７に影響を及ぼす場合がある。一方、アンテナ６ａで送受信した情報信号を符号化または複合化する信号処理部６ｂは、上述したようにアンテナ６ａと信号線で結線されている。したがって、図３に示したように、信号処理部６ｂはシールド板７ｂの裏側に配置した。このように、液晶パネル４ｂにＲＦＩＤモジュール６およびデジタイザ７を積層した構成であっても、ＲＦＩＤモジュール６によるＲＦＩＤタグによる外部からの情報信号の伝達と、デジタイザ７によるガラス４ａに描いたデジタイザペンの位置情報の伝達とを確実に実現することができる。なお、シールド板７ｂの裏側とは、シールド板７ｂの背面上に限定されない。信号処理部６ｂはシールド板７ｂと距離を開けて配置されても良い。ただし、ＰＣ１を小型化させる為や、アンテナ６ａと信号処理部６ｂとを結線するケーブルの引き回しを容易化させる為には、信号処理部６ｂはシールド板７ｂの背面上に配置されることが好ましい。